

討議テーマ1：

高円寺で取り組みたいこと、参考になりそうなこと

グループ1

グルーピングしたタイトル	意見
みどり	緑化を進める。気温が高すぎる。木陰も少なく、通勤や子どものことが不安だ。敷地の広い家の土地を売って小さな家の敷地ばかりになると、植栽の面積が少なくなり、結果として緑化率が下がっていることに危機感を感じる。そのため、街路樹を増やしたり、ポケットパークが欲しい。歩きやすさの向上にもなると思う。
まちの魅力の発掘・発信	高円寺氷川神社の魅力を活かし、氷川神社を中心としたまちづくりができないか。 一定の時間までで一部の業種の店舗を閉店する、新規出店時に業務内容を精査するなどによって治安を向上させ、安心できるナイトカルチャーを推進する。海外では舞台鑑賞や音楽鑑賞など、夜の時間の使い方が色々ある。高円寺も座・高円寺があったり芸人や芸術家が多いなど、カルチャーを育てることができる地域性があり、ナイトカルチャーの推進ができるのではないかと考える。 保育園のバザーで近隣の商店にも出店を依頼し、地域全体のグルメイベントにしたことがある。その結果、商店×地域住民のコミュニティが生まれた。地域を巻き込んだイベントの推進は地域コミュニティの形成にも繋がるのではないかと考える。
地域の担い手の育成 コミュニティ形成 コミュニケーションの場づくり	高円寺北一丁目は高齢者が多いため、買い物に出た際に高齢者がちょっと休めるスポットを造りたい。区の施策で私有地にベンチを設置できるものがあるが、私有地で休むというのはハードルが高いため、道路等の公共用地に設置できると良い。 地域づくりの担い手を増やしたい。子育て中だが、コミュニティのつくり方が分からない。太子堂のポケットパークの取組は魅力的に感じたが、仕事をしながら子育て中で、自分が地域のそのような取組に貢献する時間や手立てがない。同世代の人を見ていても同様に、地域づくりの担い手の増やし方やコミュニティのつくり方が分からない。資料に「ママ友ネットワークを使って」と書いてあるが、ママ友とかみんな忙しくてできないと思う。 世代が変わってもデザイン会議のような活動が続いていく環境があると良い。中高生が参加できる仕組みや、時間がある大学生をまちづくりの取組に引き入れることができると良い。学生が参加できる活動を行うことで担い手を育成する。 地域住民が気軽に立ち寄れるコミュニティ施設がほしい。高円寺北一丁目には町会館のような施設が無いので高円寺学園を四苦八苦しながら予約している。町会が独自で管理できる施設等があれば、地域の人フラッと立ち寄って話したり、高齢者がお茶を飲んだりすることができる。今回のまちづくりの中でそのような施設を確保出来たらよいと考えている。
歩きやすさ・交通	道路の安全を考えると、狭い道路の一方通行化について議論したい。その道路沿いの住民には不自由を強いることになるため、議論を重ねることが必要だと考える。

若い人などが住みやすいまち	若者や若い夫婦が住みやすく、仕事ができる環境があったら良い。具体的には、子育てに十分な広さがある家を若い夫婦が購入できたり、若者が安い賃料で店を出店し起業のチャンスを掴めるような環境をずっと維持したい。
	街が高級化し家賃が上がると、商売ができるテナントも大企業に限られてしまうのではないかと危機感を感じている。高級化が及ぼす街への影響や、家賃の推移、高円寺在住者の収入の推移、物価の推移等について調査したい。高円寺の文化を守るためには高級化を起こさないことが重要だと思う。
勉強会	補助227号線を通さない「防災まちづくり」について調査・学習をしたい。
	道路整備以外の防火対策を進めるために、木造密集市街地での防災対策（修復型まちづくり）について、参考になりそうだったので学習したい。
部会を発足する前に確認したいこと	下北沢の再開発のようなものを目指したいのか。高円寺のイメージや特殊性を、部会発足前に（仮称）デザイン会議メンバーで確認、共有したい。
	部会で取り組みたいことを決める前に、まず（仮称）デザイン会議参加者全体でまちの目ざす姿に対する共通認識を持つようにした方が良いのではないか。
	高円寺が外へ向けて何を売りにしているのかを確認したい。高円寺には変なイメージを持っている人が多く、それが高円寺の魅力であると思う。そのような認識を（仮称）デザイン会議参加者全体で確認、共有したい。
全体に関わること	西荻の部会との協力体制ができると良い。同じ志を持っているところもあると思うので、協力ができれば良いのではないか。

グループ2

グルーピングしたタイトル	意見
担い手・若者を巻き込む	高円寺は様々な年代の人たちが住む街なので、それをさらに強化するために、三世代での交流をたくさんしたい。
	若者と高齢者が一緒にたの街ならではのコミュニケーションができる街づくりができると良い。
	まちには若者がたくさんいるのに、まちづくりへの参加となるとまだ弱い。将来のまちの担い手でもある若者が気軽にまちづくりに参加するための取組が必要だ。
	同世代や多世代の交流、朝・昼・夜の交流、中野区との交流など、いろいろな世代といつでも気軽に交流できるようなまちにしたい。
緑を増やす工夫	防災拠点の整備や周知が必要だ。道路用地等を防災拠点として整備できると良い。
	空き家や買収後の道路用地の活用を考えるべきだ。緑を増やし、太子堂のポケットパークの様なものできると良い。
	道路用地やポケットパークに植物を植えたり鉢植えを置くなどして緑を増やす工夫をする。そこにベンチを置けば、みどりで涼むことができ、憩いの場になる。
住民目線でのサポート	道路整備がされると車通りが激しくなるので、沿道の家屋などに対して何かしらの防音対策が必要だ。
	道路整備によって立ち退きを迫られても立ち退きが困難な人に対して、サポートが必要だ。

商店街としてのあり方	高円寺の魅力は商店街であり、補助221号線も拡幅後に商店街となれば発展するのではないかと。魅力あふれる街並みや、人々の活気に軸を置いて、多世代で盛り上がるにぎやかな街にしたい。
全体的に言えること	中野では開発によって商業施設が立ち並び、にぎやかになる。いろいろな世代の人たちが高円寺⇔中野をサイクリングやウォーキングで行き来する活気ある道路にするために、自動車だけでなく歩行者や自転車利用者にとっても使いやすい道路に整備してほしい。
	商店街のような街にするのであれば、JRとも連携していく必要がある。中野区、都の計画、JRとの工事のすり合わせが必要だろう。
	補助221号線エリアは高円寺から中野へ区域の変わり目で、中央線の高架も地面と同じ高さまで下がってきて、景観がガラッと変わる。だからこそ、機能やコンセプトを分断するのではなく、中野区と一体となって街づくりに取り組んだ方がよい。中野のセントラルパークとの連動が重要だ。 高円寺全体ではどのエリアに焦点を当てるべきかを考え、エリアを明確化して絞って検討する必要がある。エリアごとのブランド化やエリア間を回遊する工夫ができるとよい。
タイトルなし	町会は掃除などのイベントを運営しているが、町会メンバーはたくさんいるのに、町会からの参加は3人などとても少ない。町会メンバーがもっと能動的に参加するような仕組みが必要だ。一丁目は町会が一つしかないの、その一つの町会さえしっかり部会に巻き込むことができれば、強力な部会と町会の連携が生まれるのではないかと。
	大掃除や大道芸など、既存の町会行事はいくつかあるが、若者の参加はあまりないので、促すために工夫が必要だ。
	補助221号線の事業計画が必要となる根拠について、時間をたっぷりとして、全体で徹底的に討議をする日程をとってもらいたい。
	区による一方的な道路整備検証結果だけでなく、住民主体でもその検証結果が正しいかどうか確かめたい。
	補助221号線の整備についての説明をわかりやすくするために縮小模型をつくって、どんな道路でどんなまちに変わるのか、イメージが湧くようにしてもらいたい。
	交通安全に取り組みたい。キックボードや自転車で飛ばしている人がいたり、交差点で車が停止せずに横断歩道を突っ切ってきたりするので、運転者がルールを守るようになる取組を考えなければならないと思う。
	今のままの高円寺が良いと思うので、今の街を維持したい。街の歴史を広く知らせたい。歴史を知るための勉強会ができると良い。

グループ3

グルーピングしたタイトル	意見
歩きやすさ	補助221号線沿道には日陰がないので夏の歩行が暑い。木を植え、休み処をつくりたい。
	補助221号線は歩く人も多いので、歩道の確保が必要だと思う。
	補助221号線は歩く人も多いので、休みどころがあると良いと思う。
	補助221号線を雨の日も濡れないで歩けるよう、高架下を使って傘を差さずに移動できるアンブレラフリーな道にしたい。
	ポケットパークは良いアイデアだと思う。グローバルデザインも大切だ。
	大きすぎる道路は不要だ。まちの個性がなくなり、交通量が増える。
	補助221号線は歩く人も多いので、ユニバーサルデザインを考えておく必要があると思う。
防災	空き巣などが心配なので町内に防犯カメラを設置したい。
	まちづくりは防災に向けたものが基本だと思う。公園など、道でなくても通り抜けできるようにすると良いと思う。
	防犯カメラは見るのにお金がかかる。防犯カメラより人の目があることが大切だ。
	まちづくりは防災が基本だと思うので、防災倉庫が必要だ。ポケットパークも含む公園の活用を考えたい。
まちの景観や魅力の保全、発信	自分たちが住むまちを考えるために、まちの歴史を知ることや実際にスポットを巡ることも必要だと思う。
	自分たちが住むまちを考えるために、まちの魅力をマップにまとめたい。
	このような会があることを今回初めて知った。もっと若者への発信をした方が良いと思う。
	みどりを残したい。防災の観点から井戸などを利用することも考えたい。
地域の担い手を発掘	これからのまちがどうなるのが良いのか、子どもの声を聞くことが必要だ。
コミュニティづくりが大切	もっと交流の場をつくり、コミュニティづくりや文化の発信をする。
	まちづくりはコミュニティ（地域共同体）づくりそのものだと思う。コミュニティがなぜ重要なのかの理解促進が大事だと思う。
	活気がある高円寺がなくならないようにしたい。
	気軽に参加できるワークショップがあると、いろいろな属性の人が集まると思う。
道路(補助221号線)のあり方	道路を拡げるとなると、不法駐車が増える。スピードを出す。車両、自転車が増える。一方通行にする場合、JR北側を東向き、JR南側を西向きにできるとよい。
	これからのまちを考えるなら、杉並区がもっと主体的に考え計画する必要があると思う。現状は東京都が決めたことを行なっているだけのように見える。東京都の下請けではないと思う。

道路(補助221号線) のあり方	古い建物や細い路地をなくさず実現する防災を考える（ヨーロッパの消防車小型化やパイプスタンド型消防器具、ポケットパークなどを参考にする）。
	補助221号線には商用スペースを設け、賑わいがあると良いと思う。
	人工的（無機質）な街風景ではなく、人間らしさ、高円寺らしさを守る。文化を大事にする。大型商業施設ではなく、商店街と個人店を大切にしたい。

グループ4

グルーピングしたタイトル	意見
みどり・緑地・緑道	緑道や緑地を通ることによって心身ともに健康になるため、みどりをできる限り増やしたい。
	道路里親制度で15年ほど区と協働で管理している場所があるが、管理外になるとゴミや伐採した木々がそのまま放置されている。こうした管理されている場所とされていない場所をきれいな道として繋げていくためにはどうするか考えたい。どういうアイデアが出てくるかわからないが、みんなで一緒になって考えていきたい。
歩きやすい道・公園	最近、民泊を始めた家が増えており、外国人がタクシー運転者に民泊目的地が載った地図アプリを提示し、土地勘のない運転者がその道順のとおり運転することで、路地裏に迷い込むタクシーが急増しているため、近隣住民とトラブルになるケースがある。そういった車両が入ってくると歩行者としても歩きづらい道になる。
	個人的な要望になるかもしれないが、生理用品のごみ箱がなく処理に困るので、高円寺駅前の女子公衆トイレに生理用品のごみ箱が欲しい。
交通量を増やさない	補助221号線を拡張すると車の交通量が増加して交通事故のリスクも増大すると懸念しているため、道路を拡張せずに現状を維持したい。
	交通量を増やさず、高円寺のまちなかを事故のリスクがない安全な場所にしたい。
まち歩き	まずはまちを知ってもらうことや課題を見つけることを目的に、最初から決め打ちでテーマを設定せずに皆んなでまちを歩く。慣れたまちでも皆んなで歩くことによって今まで気づけなかったことや課題を発見することができ、その解決に向けてより具体的なテーマに入っていけると考えている。
	車椅子では小さな道路の凸凹が障害となるので、実際にまち歩きをして凸凹した危険な道路箇所を共有しながら、危険のない道を構築できるよう考えていきたい。
まちを知る	袋小路と路地の分布マップづくりをしたい。「路地」の定義は人によって様々であるため、その定義づけは皆で決めていきたい。
	道の「通り抜け難易度」調査をしたい。高円寺は抜け道が多くあるが、クランクも多くあり、通り抜けが難しい箇所がある。
	道のポケットパーク所有度のランク付をする。
	公園や沿道・路地などの道の日陰・陽あたりマップを作ってまちの現状を把握する。

交流・コミュニティ活性化	日常で住民同士が交流できる機会をもっと作っていけるよう、何か支援できる仕組みを考えたい(例：ラジオ体操やバードウォッチングの開催)。交流を重ねることで日常の情報交換も増え、まちづくり等をみんなで取り組む際の切り口になる。
交流・コミュニティ活性化 (インクルーシブデザイン)	寝に帰るだけの現役世代、特別養護老人ホームなどの入居者、障がいのある方など、デザイン会議のようなまちづくり会議に出て来られない方が多くいる。そういった方々を巻き込んだ、本当の意味での全員参加のまちづくりを考えたい。そのためにインクルーシブデザインを念頭にしたまちづくり運営ができればと考える。
	デイサービスなどに伺って入所者の方も一緒に会議で議論ができると良い。
杉並の魅力の発信拠点	区内外に向けて杉並の良いところや伸ばしていきたいところを発信していきたい。例えば区議会の女性議員の比率が他より高い、純情商店街は来たことがない人も知っている(映画やよくロケに使われているから魅力的) など、杉並っていいよねというイメージを発信できる自治体を目指したい。

グループ5

グルーピングしたタイトル	意見
高円寺は多様なまち～ ひとまとめにできない	高円寺は多様性のあるまちなので、まち全体を対象とすると検討がアバウトになり、まとまりを欠くものに終わるのではないかと心配している。ただ、いろいろな意見は聞きたい。
	都市計画道路の問題もあるので、高円寺のなかでも高円寺北一丁目はケーススタディとして取り上げて、部会として作ったらよいと思う。
	高円寺北一丁目は静かなまちで、高円寺の他のエリアとは異なる。環七により高円寺北一丁目は他の高円寺地区より中野の一部のイメージなので、それを踏まえたまちづくりになると思う。
	補助221号線に賛成反対ではなく、高円寺北一丁目周辺の将来のまちづくりを考え、将来像にとっての補助221号線の必要性を考えるべき。
歩きたくなるまち	街のなかの回遊性として、立ち止まり、休む場所がどれくらいあるか確認したい。
	賑わいを商店街に集中させず、ほどよく分散した、歩くのが楽しいまちづくりをし、中野ー高円寺間の回遊性をつくりたい。
	住む人と個人商店の調和が大切だ。住みやすさという点では防災を考えたいが、一方で収益性を考えると、集客力も求められるだろう。
	中野の開発の圧に負けないようにしたい。タワーマンションや道路整備による通過交通が増えるのではなく、歩行者が過ごしやすく個人商店が存続できるようなやさしいものにしたい。広い道路は必要か。人々が集い、買い物ができるまちになると良い。

防災	防災・減災の視点から木造密集地域の対策として、中野とも連携し、災害時に中野の四季の森も防災拠点として使えるようになるとうい。
	みどりを残す、増やすことで防災対策をしたい。水源となる井戸や防水タンクなど、各戸の防火の状況も把握したい。
	災害が起こった際、何が問題になるのか。木造住宅密集などが問題になるのか。高円寺南五丁目の火災でも消防車が入れなかったことがあった。
	蚕糸の森公園は街づくりの視点で防災拠点をつくった先進例としてよいと思う。
まちの変化による影響	下北沢の再開発で失われたものは何か？（例：家賃の上昇、個人店の減少）
	高円寺の良さを残したい。都市計画道路が駅前を貫通していないので、歩行者中心で、人々が安全に歩行できる。高層ビルは不要だ。駅前の再開発を行う場合は、歩行者の目線で開発する必要がある。補助221号線も同様だ。
	居住者から見た高円寺の良さや次世代へ守りたい価値観をみんなで考えたい。
	計画を東京都など広域的な視点で決めるではなく、地域から見た道路の視点が必要だ。
	太子堂の話は「街づくり」プランの実段階の話としては参考になった。本会議はそれ以前の段階であると思う。短期の目線だけではなく、次世代も見据えることは大切なので、子どもや若い世代を巻き込めるとよい。
	JR高架下の利活用としてJRは商業施設しか考えていないが、道を拡げること活用できるとよい。
	杉並区では交通の新しい技術としてAIオンデマンドバスなど実験的に取り組んでいるが、バス路線の縮小などへの懸念も多い。公共交通を考える部会をやりたい。
	休日に高円寺駅にも快速を止めてほしい。
	道路ありきではなく、交通が変化することによって、どのような地域での影響が高円寺ではどうなるのか考えたい。
参考になった	太子堂で中学生が街づくりに参加している話は良かった。

グループ6

グルーピングしたタイトル	意見
歩行空間を豊かにする拡幅	歩行空間を豊かにするための拡幅を考えたい。
既にコミュニティはある！！	若い世代はゴミを持ち帰るモラルを持っている人も多い。自治会のような組織的な活動ではないが、小さなコミュニティが沢山あるというのが高円寺の魅力である。このような、区が進める活動をつくるのみではなく、街にすでにある活動に目を向けてみてはどうか。
	地域ではラジオ体操や清掃の活動も既に行なっている。
	チェーン店や大規模店によってコミュニティが失われてしまう。
	路上生活者を温かく受け止める高円寺の良さを残したい。

街ごとの住民の特性	若者も地元愛を持てる高円寺にしたい。
	地元愛が軽視されるような、利益や効率性重視のまちづくりになるのは嫌だ。近所のおばあちゃんとのふれあいや個人店との顔見知りの関係が大切であり、都市計画道路によるコミュニティの分断は、そのような地元愛を損なうので反対である。
	地域の人間関係が大切。お店の知り合いや友達との繋がりが重要だが、今の若い人はSNSで繋がっても顔と顔を合わせるつながりは希薄だと思う。体験的には理解できるが、北中夜市のようなイベントには若者がたくさん集まるのを見ると、つながりがあるところ、ないところの両方ある。
	下北沢とは違い、高円寺は「家持ち」「定住」が多くない。若年層は特にそうだ。
	どの年代も住みやすく、住み続けたい街にしたい。
	20～35歳で転入し、65歳で移住してしまう。若い世代が多く、20年以上住み続けたい人は少ない。14歳以下は少ない。ここで子育てするのは大変だと思う。
	外国人を含めて、外から遊びに来てくれる人は現状の高円寺が魅力的だから来るのであって、開発で何かを変える必要はない。
	空き家対策が課題というには、高円寺はまだ少ない方だと思うが、空き家の活用方法として、世代を超えた「居場所」、単身世帯の高齢者が集う場所として活用すると良い。
	まちづくりではそこにどのような人が住んでいるのが重要なのでは。住む人が快適に暮らせることが必要。
	空き家対策を検討するために、まず高円寺周辺にどのくらい空き家があるのかを調べる必要がある。
	単身高齢者は賃貸住宅を借りることが難しい。女性の高齢者も多い。
	高齢になったら他のまちに住むという人が多い。
	高円寺に定住するという希望を持っている若い人は少ない。若い時に高円寺に住み始め、35才から60才くらいまでに他所に出て行く人が多い。ファミリー世帯向けの賃貸住宅が少ないことが原因の一つだと思う。
開発の必要性	補助221号線の拡幅は地域にとってメリットがあるようには思えない。通り過ぎる人が多くなるだけで、地域にとって拡幅の必要性があるのか知りたい。
	補助221号線の情報が行き渡っていない。情報の内容に納得していない。
	都市計画道路そのものが古すぎて不要なので、高円寺エリアでは全部白紙化したい。
	人口減少、車の所持減少の中で、道路拡幅という解決策に帰着するのはなぜか。どのような効果が期待できるのか、検証不足ではないか。
	「メソッド」でやった結果、太子堂はホームレスを追い出したのではないか。
	住宅エリアは他所から人が来ることを望まないエリアであり、商店街は観光の要素があり多くの人が来ることを望むエリアである。
	高円寺北一丁目は静かな住宅地のままであってほしい。
	商店街もセットで高円寺北一丁目の地域の将来像を考え、補助221号線の是非を再考したい。

認可について	道路拡幅事業の認可自体が（現区長を選んだ）現状の住民の意思と異なるのではないかな。
防災を理由にするなら、 大型消防車以外の防災を考えよう	今の道路では「消防車が通れない」というのはどういう論拠なのか。現状でできていると思う。
	高層ビルは、緊急時の避難が必ずしもスムーズにいくとは考えられない。居住者にとっては災害によるリスクが高まると思う。高円寺にはない方が良い。
	高円寺では高層ビルを禁止する地区計画ができると良い。
	啓発、防災資料館を高円寺につくりたい。
	木造密集地域の防災について、道路拡張以外の方法があるはずだ。新技術やソフト、マンパワー等、複合的に解決できると思う。これらの方法についての情報提供や勉強会をしたい。
	細街路は緊急自動車が入れないと言うが、高円寺には軽車両の消防車があり、住宅街の中まで消防車が入れる。このような地域の状況に合わせた防災対策が必要である。